

2017年1月24日 No.101

乳酸菌LJ88殺菌体に「胃食道逆流症」関連症状の改善作用を確認

スノーデン株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役:明壁義蔵)は、2016年4月から供給を開始しました「乳酸菌LJ88殺菌体」を用いたヒト臨床試験を実施し、「胃食道逆流症」関連症状を改善する効果があることを確認しました。またその試験結果が学術雑誌「American Journal of Food Science and Health」オンライン版に掲載されましたのでお知らせいたします。

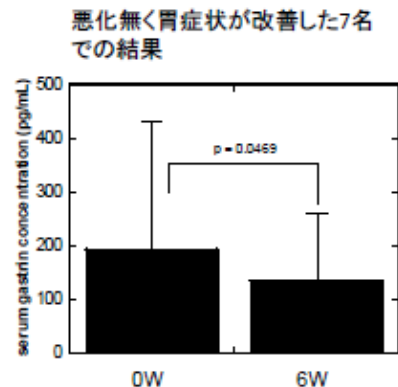
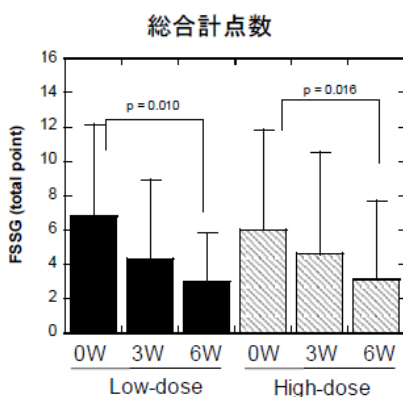
乳酸菌LJ88殺菌体は、動物等を用いた基礎研究で、経口投与することによりガストリン陽性細胞数を低下させ、胃酸分泌を抑制することから、胃の健康維持に効果があることが期待されていました。更に、同じく経口投与で腸に対しては糞便中のビフィズス菌を有意に増加させる効果も見いだされており、胃と腸の両面に効果がある新しいタイプの乳酸菌です。

試験方法の概略

30名の健康なボランティア(男22名、女8名;年齢22~67歳;胃腸薬を服用しておらず、治療も受けていない)を対象に、各15名の2群に分けて、「乳酸菌LJ88殺菌体」を10億個/日(低用量)、100億個/日(高用量)を6週間摂取させました。血液生化学検査、血球検査、尿検査等で安全性を評価しました。

試験結果

胃食道逆流症状に関する問診票の総合スコアで、低用量群、高用量群共に有意に改善しました。さらに胃症状が悪化することなく、改善した7名については血中ガストリン濃度も有意に低下しました。また、安全性の懸念を示唆する変化は認められませんでした。



Am J Food Sci Health vol.2, 176-185, 2016.